多文化共生の扉―

このコーナーへの意見・感想は、協働推進課国際交流・多文化共生担当（市民活動センター内）☎㉚0201まで気軽に寄せてください。

端午の節句

多文化共生相談員　陳（ちん）　琳（りん）さん

日本では「端午（たんご）の節句（せっく）」に男の子が無事成長することを願ってお祝いをします。中国の「端午の節句」は毎年旧暦の５月５日、2014年の「端午節」(ドゥアンウージエ)は６月２日です。

中国の「端午節」は、よもぎで人形を作って飾ったり、菖蒲酒（しょうぶしゅ）を飲んで健康を祈願したりする習慣があります。また、この時期に行われる有名なスポーツイベントは、ドラゴンボートレースです。

その日に必ず食べる伝統的な食べ物には、各地域の産物を上手に活用した「ご当地ちまき」があります。このちまきを中国語では「粽子（ゾンズ）」と言います。ドラゴンボートレースや「粽子」には、中国の戦国時代、楚の政治家「屈原（くつげん）」に関係があります。

「屈原」は国を憂いながら５月５日に川に身を投じました。民衆はドラゴンボートから太鼓を打って音を立てて魚をおどし、屈原の遺体が魚に食べられないように、川にちまきをまいたと言われています。しかし現在のドラゴンボートは、スポーツや娯楽として人気があります。

中国のちまきは水分を吸わせたもち米をヨシや竹の葉で包み、イグサで縛って茹でたり、蒸したりするのが一般的です。しかし、広大な中国ではちまきの具が地方により異なります。

北のちまきは、もち米に小豆や緑豆、ナツメ、栗を入れることが多いです。ヨメナという草で縛って茹でると、その草の香りを楽しむことが出来ます。形は円錐形が多く味は甘いです。

一方南のちまきは、クマザサやアシの葉で包み、もち米と味付けした豚肉や鶏肉を入れます。好みでゆでた卵黄、竹の子、しいたけ、干しえびを入れたりします。形は三角形が多く、味は塩辛いのが好まれます。

日本の皆さんも端午の節句にちまきをつくってみてはいかがでしょうか。

ドラゴンボートレース

中国のちまき

廿日市市では、外国人も地域社会の一員として暮らしやすい地域づくりを進めるため、外国語で相談対応のできる「多文化共生相談員」を配置しています。

相談日

●**中国語**　火・水・木曜日
陳琳（ちん・りん）相談員

●**タガログ語・英語**　水・金曜日
竹下シェラ相談員

※いずれも９時～16時

ところ　市民活動センター

内　容　生活に必要な情報の提供、市役所の手続きなどの相談、市役所窓口や小・中学校・保育園での手続きなどの通訳。

「広報はつかいち」が全国広報コンクールで特選
総務大臣賞、読売新聞社賞を受賞
組み写真も入選

昨年発行した「広報はつかいち12月号」が平成26年全国広報コンクール（日本広報協会主催）広報紙（市部）で特選に選ばれ、総務大臣賞、読売新聞社賞を受賞しました。

同コンクールは、地方自治体の広報活動の向上に寄与することを目的に、昭和39年から実施。都道府県の審査・推薦により提出された広報作品が対象。記事の切り口の発想性の「企画」、表現力、読みやすさ、表記などの「文章」、紙面の「デザイン・レイアウト」で審査します。

12月号は「廿日市のハコモノ改革―」と題し、公共施設の更新問題を取り上げ、表紙含め15ページで特集。市の財政を揺るがすほどの危機が迫っていることや、廿日市市の状況、先進地の取り組みを説明。今後の取り組みに関して、市民の声を聞く「市民アンケート」も紙面に盛り込みました。

審査員からは、「客観的なデータを提示して問題点を分析、まちの現状を説明し、市民に問いかけるというまっとうな構成がよい。広報紙を通じて、行政が市民と真剣に向き合っているようで、そこに広報の本来の姿を感じた」と講評を受けました。

また、廿日市西高校で行われたスタントマンによる交通安全教室を取材した8月号が、「組み写真の部」で入選。「事故になる瞬間が克明に写しだされ、持ち前の撮影力が生きている」と評価。廿日市市初となるダブル入選となりました。

市では、知ってもらいたいことや一緒に考えてもらいたいことなどをタイミングを計って特集として掲載しています。

特集として深く掘り下げることで、より伝わりやすくなり、テーマに関係する市民の方からお話を伺うことで「広報紙づくり」が行政からの一方通行でなくなると考えています。

これからも「広報はつかいち」は、市民の皆さんの役に立ち、必要とされる広報紙を目指していきます。

写真左から、広報はつかいち12月号表紙、同２－３ページ、８月号14－15ページ

みんなが手をつなぐために

これからの人生を考える

西郷隆盛は「児孫（じそん）のために美田（びでん）を買わず」という言葉を残しています。

これは「子孫のために財産を残すと、かえってよい結果にならないから、そうしない」という意味です。その中には「自分の人生は自分で努力をし、築き上げ、充実した人生を送って欲しい」という愛情が隠されているようです。

あなたが、この人生で得たものはなんでしょうか。また次世代へ何を引き継いで欲しいと思っていますか。

人生の終点から考えてみたいと思います。

エンディングノートを書こう

エンディングノートは、自分の歴史を伝えるノートです。自身の誕生から、入学・卒業・就職・家族など、自分の歴史を振り返ってみましょう。書き残すことの中から自分の生きざまがきっと伝えられるでしょう。

問合せ
人権・男女共同推進課
☎㉚9136

この欄は、市民と市職員で構成する「広報人権問題シリーズ編集委員会」が編集しています

遺言・相続をはっきりと

あなたの資産状態はどうですか。また誰に相続を望んでいますか。

法的な遺言書は、自筆証書遺言書もありますが、トラブル防止のため、公的証書遺言書の作成が確実です。

健康なうちに、家族と話し合い、自分の考えを明確に伝えておくことは大切なことだと思います。

健康面での意思を明確に

廿日市市の健康寿命は広島県でも上位で、男女とも80歳を越えています。長寿社会の中でこれからの人生をどう考えたらよいのでしょうか。

病魔や事故はいつ襲ってくるかわかりません。万が一の時に、自分の望みと心構えを明らかにしておきましょう。

「かかりつけの病院は。介護は誰に。自宅か施設か。費用は。延命措置は。」自分の意思を書き残しておくと、望む終点が迎えられます。

住み慣れたこのまちで過ごしたい

このように、家族と話し合い、自分の思いを残しておくと、心穏やかに人生を過ごしていけると思います。

東日本大震災をきっかけに地域の絆の大切さが見直されています。

住み慣れた廿日市市で、お互いに「おはよう・こんにちは・お疲れさま」など気持ちよくあいさつを交わしながら、人生を明るく元気に過ごしたいものですね。